

海外の空港開発プロジェクトに関するコンサルティング業務

プロジェクトの概要

【モンゴル国 新ウランバートル国際空港整備事業】

モンゴルの首都空港であるチンギスハーン国際空港はサービス産業の成長、豊富な地下資源・畜産資源に対する投資拡大などを背景に旅客数が急増し、施設の拡充が必要であった。しかし、同空港は周辺の山が障害物となり離着陸方向が制限され、強風時にはフライトの遅延や欠航が頻繁に発生していた。調査検討の結果、現空港の拡張事業は行わず、地理的制約を受けない場所に新国際空港を建設することとなった。本事業は2006年に調査および計画、2009年に詳細設計、2013年から施工監理を実施した。本空港は2020年に完工し2021年より開港した。当社は本事業においてコンサルタントとして調査、計画、設計、施工監理を実施した。



【パプアニューギニア国 トクア空港整備協力準備調査】

パプアニューギニア独立国（以下、「PNG国」）は、急峻な地勢、熱帯性ジャングルなどのために道路網の整備が十分ではなく、航空輸送が国内主要都市間の移動方法となっている。本調査対象のトクア空港は、PNG国の第3都市の空港として、また東ニューブリテン州及び周辺の拠点空港として機能している。現在の同空港施設の年間旅客取扱能力である17万人に対し、年間旅客数は2015年に17万人に達しており、今後の旅客需要の増加に伴い旅客処理能力が不足することが予測されている。PNG国は、観光産業を地域の重要な成長産業と捉えて同空港への国際線就航を計画しており、それに伴い空港施設の拡張整備や、国際基準に準拠するための滑走路の拡幅や舗装強度の増加等が必要である。本業務では旅客処理能力の向上と老朽化改善を目的とした協力準備調査を実施した。土木施設の主な調査対象は滑走路、誘導路、エプロン、道路駐車場であり、それらの施設の拡張・改良に係る概略設計と概算工事費の算定が行われた。



インターンシップ研修内容

本インターンでは、当社が過去に実施した「モンゴル国新ウランバートル国際空港整備事業」および、「パプアニューギニア国トクア空港整備協力準備調査」を題材にコンサルタント業務の模擬体験を行います。

- 必要滑走路長の検討
- 滑走路延伸方向の比較
- 旅客ターミナルビルの形状検討
- 社員との交流
- インターンシップの成果発表
- その他、学生に興味に応じて相談

対象者

土木工学を専攻する大学生または大学院生

実施期間

7月下旬から9月末日までの期間で1週間程度（応相談）

募集人数

複数名